

県立の図書館のご紹介

平成 25 年 11 月 14 日 県立図書館、川崎図書館

神奈川県には、県立図書館（横浜）と県立川崎図書館（川崎）の 2 館の県立図書館があります。それぞれの特徴を活かし、機能を分担しながら運営をしています。

県立図書館

* 社会・人文系リサーチ・ライブラリー *

神奈川県立図書館は、社会・人文系の資料等を収集・提供し、高度な学習ニーズに対応できるよう、課題解決型のリサーチ・ライブラリーへの展開を目指しています。また、市町村図書館等と相互に密接な連携を保ちながら、全県域を対象とした図書館サービスの向上を図る役割も担っています。

図書資料：808,455 冊

逐次刊行物：7,727 タイトル

視聴覚資料：109,203 点

(平成 24 年度末)



平成 25 年度 県立図書館運営方針より抜粋

- 社会・人文系の資料・情報を積極的に収集・提供し、県民に役立つ「調査研究活動支援」機能を高め、「生涯学習支援」、「ビジネス支援」、「行政支援」サービスを展開する。
- 館内展示、県民公開講座、ビジネス支援相談などを積極的に企画・開催し、県立の図書館ホームページを始めとした様々なメディアを活用した発信に努め、多彩で魅力的な「知の機会」を提供する。
- 市町村立図書館の支援に力を注ぎ、大学図書館・県立高校図書館、県立機関等とより密接な連携を図って、県域全体の図書館サービスを充実させる。

県立川崎図書館

* 科学と産業の情報ライブラリー *

神奈川県立川崎図書館は、科学と産業に特化した図書館です。自然科学・工学・産業系の図書や学術雑誌、JIS 規格をはじめとした国内外の規格類、全国有数の社史コレクションを収集し、「神奈川県知的所有権センター支部」として特許情報の提供、各種相談、講座等も実施しています。

図書資料：249,666 冊

逐次刊行物：8,580 タイトル

視聴覚資料：1,579 点

(平成 24 年度末)



平成 25 年度 県立川崎図書館運営方針より抜粋

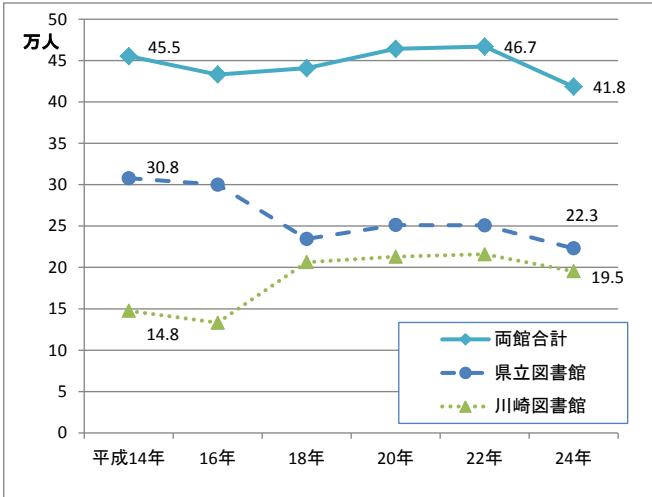
- 科学技術の最新動向を踏まえた資料・情報を積極的に収集・提供し、「調査研究活動支援」機能を高め、県民に役立つ図書館サービスを展開する。
- 多彩で魅力的な館内展示、各種講演会、講座、科学実験教室、ビジネス支援相談などを積極的に企画・開催し、メディアやHP等を活用した積極的な図書館の魅力を発信し、利用促進を図る。
- 県内試験研究機関や市町村図書館・大学図書館・県立高校図書館と密接な連携を図り、県域全体の図書館サービスを充実させる。

詳細は県立図書館、県立川崎図書館のHPをご覧ください。

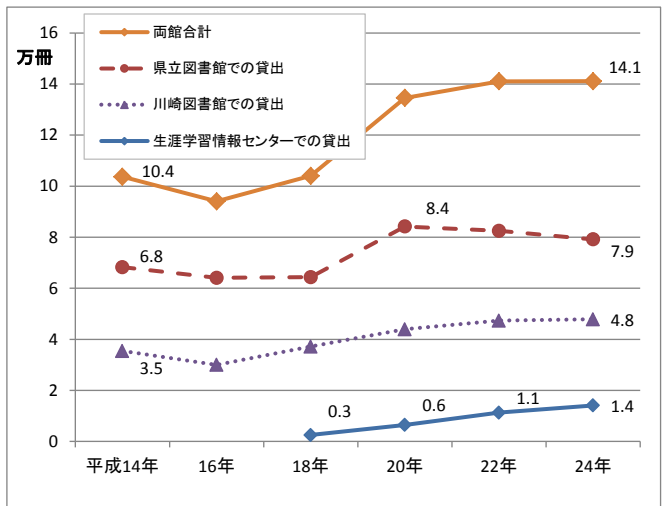
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

【県立の図書館の現状】

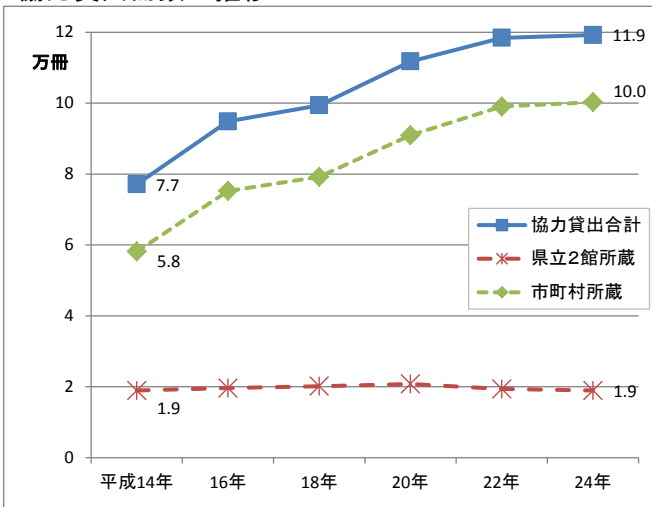
入館者の推移



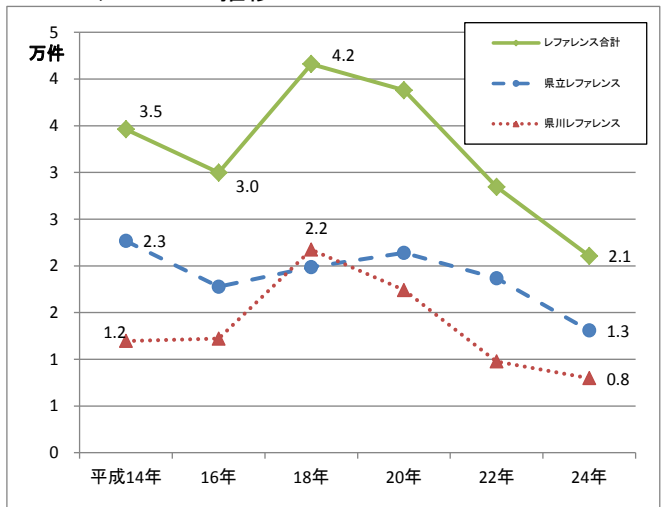
個人貸出冊数(図書資料)の推移



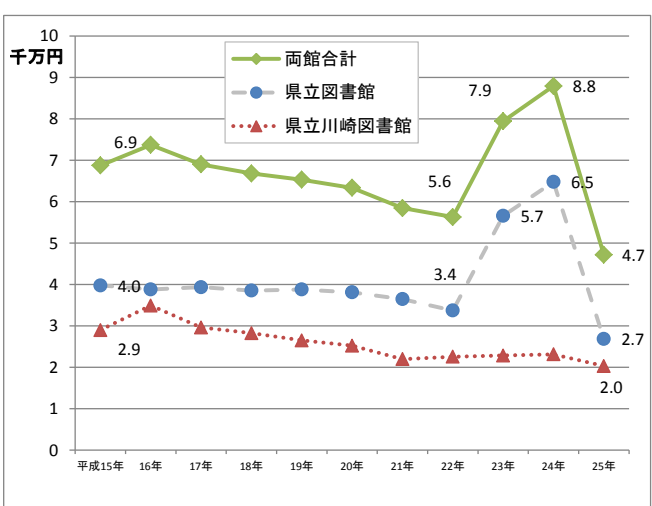
協力貸出冊数の推移



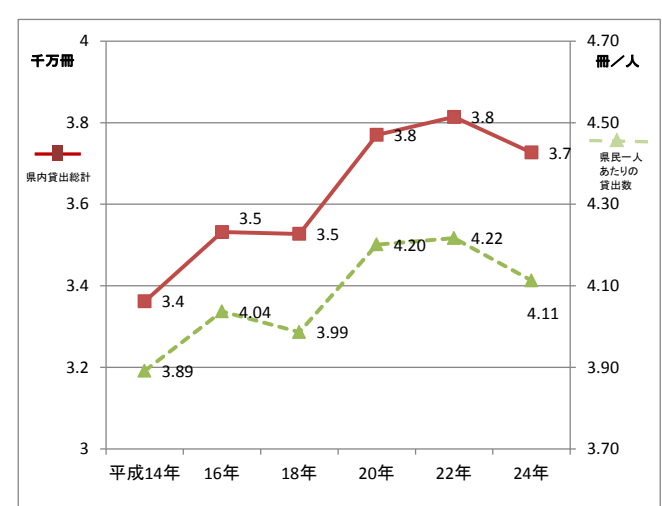
レファレンスの推移



資料費の推移



県内図書館の貸出総数と県民一人あたりの貸出数



平成 15～24 年度は決算、25 年度は予算を使用。

平成 23、24 年度の資料費は「住民生活に光をそそぐ交付金」2,370 万、3,598 万円を含む

【他の都道府県との比較】

○県立 2 館の図書資料総数 1,042,869 冊（平成 23 年度実績）は都道府県立で 11 番目。

県民 1 人あたりの図書資料数は 0.117 冊で 46 番目。

○県立 2 館の平成 25 年度の資料費は全国で 21 位。県民 1 人あたりの資料費 5.19 円は 46 番目。

○県内図書館の貸出総数は全国で 5 位、県民一人あたり貸出数は 33 番目（平成 23 年度実績）。

【神奈川県立図書館と神奈川県立川崎図書館の見直しについて】

県財政再建のため発足した神奈川県緊急財政対策本部（本部長：黒岩県知事）に対し、助言を行う外部有識者の調査会（通称：神奈川臨調）が昨年5月、全ての県有施設について、原則廃止の方向性を打ち出しました。それ以降図書館においても議論が重ねられ、県立図書館の閲覧・貸出サービスの廃止、県立川崎図書館の県立図書館への集約化など様々な方向性が示され、図書館の組織や機能の検討が行われています。

現在、閲覧機能については継続の方向で検討、県立川崎図書館を川崎市内に残す方向で検討、貸出などの機能については引き続き検討中です。

＜県立の図書館の見直しをめぐる動向＞

2012.5.26	県緊急財政対策本部調査会（神奈川臨調）が全ての県有施設について、「3年間で原則廃止する」方向性を打ち出す。
2012.9.27	臨調の提言を受け、知事は全ての施設に検討の方向性を示す。県立の図書館2館と生涯学習情報センターは「機能の純化・集約化を含めた検討」となる。
2012.11.7	県議会決算特別委員会で教育局長が県立図書館の閲覧・貸出機能の廃止を検討している旨を答弁。
2012.11.20	県が県内全市町村の図書館主管課及び図書館を対象に、「県立の図書館に関する意見交換会」（第1回）を開催。（第2回は2013年5月24日）
2013.1.18	県が県内市町村立図書館10館の館長等を対象に、「県立の図書館の見直し検討会」を開催。（全5回。同年2/28、3/22、4/25、5/17開催。）
2013.2.21	県議会本会議において、教育長が県立図書館の閲覧サービスの継続・県立川崎図書館の川崎市内での機能存続の検討について答弁。
2013.3.11	県は土地の借用期限が迫る県立川崎図書館について、京浜臨海部の殿町地区に移転する方向性で検討していることを表明。
2013.5.27	県が県立の図書館の見直しについて県民と意見交換をする「県立の図書館についての意見交換会」を3カ所で開催。（全3回。同年5/30、6/2開催。）

神奈川県 総務局 組織人材部 行政改革課「県民利用施設の見える化」より抜粋									
財産価格	収支の状況（単位：千円）								
			H23(決算ベース)		H24(決算ベース)		H25(予算ベース)		
県立図書館	【利用状況】		257,122人		250,735人		250,735人		
	【収入】		39,708		56,052		17,070		
	事業費		199,541		137,344		89,597		
	維持管理経費		86,865		96,722		106,720		
	人件費	常勤	47名	606,100	46名	627,354	42名	601,051	
		再任用	13名		11名		10名		
		臨時的任用	6名		7名		10名		
		非常勤	45名		49名		50名		
	【支出】		892,506		861,420		797,368		
	収支差引		△ 852,798		△ 805,368		△ 780,298		
利用者一人当たりコスト		3.5		3.4		3.2			
利用者一人当たり県負担額		3.3		3.2		3.1			
川崎図書館	【利用状況】		205,122人		195,413人		195,413人		
	【収入】		1,340		1,139		2,120		
	事業費		28,056		26,166		23,909		
	維持管理経費		26,743		26,363		28,484		
	人件費	常勤	19名	257,300	17名	258,197	17名	253,125	
		再任用	4名		4名		4名		
		臨時的任用	4名		5名		5名		
		非常勤	22名		24名		22名		
	【支出】		312,099		310,726		305,518		
	収支差引		△ 310,759		△ 309,587		△ 303,398		
利用者一人当たりコスト		1.5		1.6		1.6			
利用者一人当たり県負担額		1.5		1.6		1.6			

緊急財際対策 県民利用施設 見直しの方向性に関する説明資料より抜粋					
施設名	検討の方向性 (H24.10月緊急財政対策)	調整の方向性	今後の調整内容		
			25年度	26年度	27年度以降
県立図書館	○機能の純化・集約化を含めた検討	相互貸借システムの拡充など広域的サービスや川崎図書館・生涯学習情報センターとの集約化を検討する中で、必要な閲覧・貸出機能について検討	市町村との協議、機能の特化・集約化に向けた調整	→	30年度当初に集約化等
川崎図書館		川崎図書館の特性・地域性を踏まえた機能への特化、県立図書館への集約化等に向けて調整			

平成 25 年 9 月 の 状 況		
	方 向 性	説 明
県立図書館	相互貸借システムの拡充など広域的サービスや川崎図書館機能を高度化・特化しての市内への移転、生涯学習情報センターの集約化を検討する中で、必要な閲覧・貸出機能について検討	平成 26 年度当初に、県民センター内に設置している生涯学習情報センターの機能を県立図書館に集約化。 市町村立図書館との役割分担を精査しながら、県立図書館の機能を踏まえ、集約化や必要な閲覧・貸出機能等について検討中。 具体的には、閲覧機能は維持する方向で検討するとともに、県内の公立図書館間の相互貸借システムの運営など広域的サービス等について、市町村図書館とも協議しながら、検討を継続。
川崎図書館	川崎図書館の特性・地域性を踏まえた機能への高度化・特化、市内への移転について検討	借地である現在地から平成29年度末までに移転する必要があること、また、専門資料の集積と企業の調査・研究を支援するという特性や地域性が重要な役割を果たしていることから、企業支援につながる機能に高度化・特化して、京浜臨海部ライフインベーション国際戦略総合特区における産業支援施策につながるよう検討中。

【図書館アドバイザー・レクチャーとは】

神奈川県図書館協議会が平成 12 年度に廃止され、翌年度からは協議会に代えて県立両館の運営等について有識者が助言を行うアドバイザー・レクチャーに変わりました。例年、職員のみを対象に実施していましたが、今年度は県民の方々にも聴衆として参加いただくことになりました。県立 2 館のあり方について、より開かれた機会になればと考えています。

また、今年度はパネルディスカッションの方式をとっています。パネリストに、岡本真氏と山本宏義氏にパネリストをお願いし、さらに県立の図書館職員も加え、それぞれの立場で考える県立の図書館の姿についてお話いただきます。

- 岡本真氏 国際基督教大学卒業。現在は、アカデミック・リソース・ガイド株式会社の代表取締役・プロデューサーを務める。「神奈川の県立図書館を考える会」主催者。
- 山本宏義氏 東京大学卒業。相模原市立図書館長、広島市立中央図書館長を歴任の後、現在は関東学院大学文学部現代社会学科教授。専門分野は図書館情報学・図書館経営論。
- 森谷芳浩 県立図書館「明日の県立図書館づくりプロジェクト」プロジェクトリーダー。